



学校だより

子どもの未来をみんなで創る

令和2年10月号

神奈川県立相模原中央支援学校

つながる 広がる ICT 教育

「オンライン会議」「オンライン診療」「オンライン授業」等、人と人をつなぐICT機器の利用の広がり、急速に社会を変えつつあります。本校の学習においても、その利用を積極的にすすめています。先日、高等部の情報の授業では、離れた教室をオンラインでつないでインタビューを行ったり、職業（作業）の授業では、1階と2階に離れた作業場（教室）をオンラインでつないで作業の進捗状況の報告や作業内容の質問等を行ったりする学習に取り組んでいます。

違った場所に居ながらにして、共通の目的を果たすために役立つICT機器の活用は、これからさらに役割を増していくことでしょう。

先日は、学校としてグーグルクラスルームの御案内を致しました。ご協力ありがとうございます。新しい学びの場として活用してまいります。

教頭 花田



新しい取り組みの中での発見！

子どもたちが登校後教室に来てやることは、まず石鹸手洗い！そして検温！学校が始まってから毎日毎日取り組んできました。最近、何も言われなくても自分から流しに向かう姿、以前よりも丁寧に洗う姿、洗面器の中の冷たい水に手を入れることを受け入れている姿等を目にするようになりました。検温では、測っている間じっと待つことや、体温計を自分で脇の下に入れることができるようになった人もいます。マスクをつけることにも慣れてきました。積み重ねの大切さと子どもたちの順応力に驚かされます。

また、下校時には、昇降口が密にならないようにするため、一斉に昇降口に行くことを避け、スクールバスと保護者迎えの人、自力下校の人は最初に昇降口へ。放課後等デイサービスを利用する人は車の到着順に放送でアナウンスがあり、昇降口（高等部知的の生徒は体育館）に向かうことになっています。最初のうちは気にしていなかった子どもたちが、放送がかかるとじーと耳を傾けて、自分の行き先かどうかを聞くようになりました。これも新しい発見です。神妙な顔つきで放送を聞き、自分の放デイが呼ばれた途端に嬉しそうな表情を見せ、見ているこちらが思わず微笑んでしまいます。

さて、ニュースによると、この時期、例年に比べ、インフルエンザにかかる方が少ないそうです。その理由としてコロナ対策のための手洗いやマスクの着用が功をなしているのではないかとのこと。これからも、石鹸手洗いにしっかり取り組んでいって欲しいと思います。

小学部 栗田